

高 下関北高校だより

(令和4年8月18日発行)

山口県立下関北高等学校

〒759-5511 下関市豊北町滝部 1003 番地
TEL(083)782-0023 FAX(083)782-0183

高校生活の様子は下関北高校HPでも紹介しています。
<http://www.shimonosekikita-h.ysn21.jp>

■ 慶尚南道とのオンライン国際交流①

北高JRC部は6月10日(金)、「2022.山口県&慶尚南道教育庁間日韓オンライン国際交流プログラム」の実施にあたり、韓国の慶尚南道にある龍南(ヨンナム)高等学校と初めてのオンラインによる国際交流を行いました。このプログラムは日韓の交流校間で課題を設定し、SNS等を活用しながら協働学習に取り組み、その成果等をZoom等で発表し共有するものです。龍南高等学校は1967年設立の学生数325人、2009年に教育科学部指定寄宿型高校に選定された後、農漁村地域の寄宿型高校として、学びの共同活性化を通じた教室授業の改善、読書及び討論学習の深化拡大などを通じて、学力の伸張及び生徒に合わせた進路進学のために努力している学校です。今回は1回目ということでお互いの自己紹介が主な内容となりました。事前の部活動で自分の名前や簡単な自己紹介を韓国語で調べ名札に書く練習、翻訳アプリを使って発音の練習などの準備を行い本番に臨みました。本校の生徒は、最初は恥ずかしがったり声が小さかったりと反省点がありました。ヨンナム高校



の生徒は日本語が上手で、ほとんどの生徒が自己紹介を日本語で行っていました。また、「日本では縦書きと横書きがあるけれど混乱しないか」「年号の使い分け」などについての質問があり、日本のことについていろいろと勉強されていました。また、こちらからは「韓国ではやっている日本のものは何ですか」「日本に来たことがありますか」などの質問をしました。初めての交流でしたが、すぐに打ち解けて笑い声なども聞く事が出来ました。ヨンナム高校生20名、下関北高生20名だったので予定の1時間があっという間に過ぎました。生徒は早くも次回の交流会を楽しみにしています。

今回のオンライン国際交流を実施するにあたり、阿川地区社会福祉協議会の紹介で山本辰實さんに韓国語のご指導をいただいています。

■ 職業理解ガイダンスを実施しました。

6月14日(火)の6・7限目に、1・2年生を対象とした職業理解ガイダンスを実施しました。

県内外の13の大学、短大、専門学校から15人の講師の先生をお招きし、①IT・情報処理、②CG・ゲーム、③医療事務・診療情報管理士、④公務員、⑤美容・理容、⑥ファッション、⑦自動車整備、⑧保育・幼児教育、⑨介護福祉・社会福祉、⑩スポーツ、⑪声優・音楽、⑫看護、⑬理学療法士・作業療法士の13の講座が実施されました。



生徒は興味のある講座を6限目と7限目にそれぞれ一つずつ選び、二つの講座を受講しました。各講座では、講師の方からパンフレットやパワーポイント、動画等を使って、職業のやりがいや魅力、身に付けなければならない資格、その為にはどのような勉強をしなければならないかなどについて詳しく説明を受け、生徒は熱心にメモをとっていました。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、1・2年生にとっては初めてのガイダンスとなり、将来の職業を考える良い機会になりました。



■ 性に関する教育講演会を実施しました。

6月16日(木)の7限に、関門医療センター 助産師の橋田英理子様を講師としてお迎えし、今年度の「性に関する教育講演会」を本校体育館で全校生徒を対象に開催しました。橋田先生は一昨年度にも本校で講演をさせていただいており、多くの中学校や高等学校で性教育に関する講演会をされてきました。

今回の演題は、「みんなに知ってほしいからだのこと」、高校生に必要な性知識や相手を思いやる心の大切さについて、お話をいただきました。

橋田先生は、「生命の確率は3億分の1で、自分も他人も同じように大切」というところから話を始められました。そして、赤ちゃんが生まれるまで、妊娠検査薬、10代の出生数と妊娠中絶数、避妊法、性感染症などを丁寧に話され、今の生徒たちに「正しい情報と間違った情報を見分ける力」が必要で、自分の周りの人への感謝・思いやり、選ばれた生命の一つであることの意味、自分の身体を大切にすることなどを教えていただきました。最後に事前にお伝えした質問にも一つひとつ丁寧に回答していただきました。



生徒たちは最初から最後まで熱心に橋田先生のお話を聞いており、日頃から関心はあっても聞きにくい内容だけに、色々と考えさせられることが多い貴重な時間になりました。

■ 3年生ダンス発表会

6月21日(火)の6限目に、3年生女子が体育館に集まって、ダンス発表会を行いました。1学期中間考査以降に、週1回の体育の授業時間を使ってダンスの練習を続けてきました。3人から8人の7グループに分かれて、自分たちでグループ名、タイトル、楽曲選択、ダンスの構成などを考えて、繰り返し練習をしました。それぞれのグループが楽しく、元気に

キレキレのダンスを披露しました。互いの声援にも熱が入り、とても元気をもらえるダンス発表会となりました。7つのグループ名と【タイトル】は以下のとおりです。

① CATS【惑星ループ・マルモのおきて】、② ウッディー【ハロハロ】、③ 壱弍参肆【青龍のこえ】、④ Bad engel【ヒロイン再生計画】、⑤ 102さい【可愛い君が愛おしい】⑥ ナウマンソウ!!!【Booo・チアアップ・トリコ】、⑦ Wachu♡【What is love】



■ 下関市豊北町学生交流ワークショップが開催されました。

一般社団法人BC-ROBOP 海岸工学会事務局の主催で、環境問題と地域振興の問題についての取組を発表する「下関市豊北町学生交流ワークショップ」が6月25日(土)に豊北町生涯学習センター 大ホールを会場として開催されました。

本校から、JRC部の部長の小畔蒼海さんと副部長の藤田美月さんが「ハロウィンかぼちゃで交流振興・生産振興～角島大橋」の題で、5年目を迎えた「ハロかぼプロジェクト」のこれまでの取組と昨年度のJRC部の活動内容について自作のパワーポイントで分かりやすく発表しました。長崎大学、

下関市立大学、九州工業大学、九州大学、水産大学校は海岸清掃と環境問題について各大学での実践事例を発表し、翌日に「海ごみゼロ!ロボット・ビーチクリーン!!!」として阿川ほうせんぐり海浜公園の海岸清掃を九州工業大学が作成した自走しながらAIで落ちているゴミを見分けるビーチクリーンロボットを活用して行いました。本校は期末考査期間中のため海岸清掃には参加できませんでしたが、ワークショップで各大学の実践を聞く中で環境問題を深く考えるきっかけとなりました。JRC部だけでなく下関北高として、これからも環境問題に積極的に取り組んでいこうと思います。

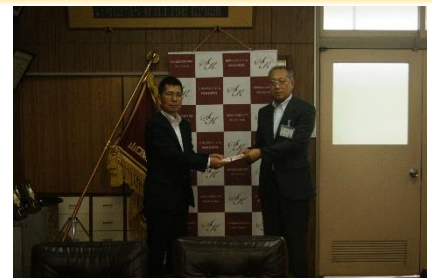


■ 「北高会」より御寄付をいただきました。

6月27日(月)、「北高会」(下関市役所職員(主に合併前の旧豊北町役場職員)で、豊北高校の卒業生のみなさんでつくっておられる団体)から、会長で豊北総合支所長の秋枝淳司様、下関市教育委員会 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム総務係の森山延宏様が来校され、寄付金を和泉屋紀之校長に手渡されました。

「北高会」からは、2008年(平成20年)から会費の一部を寄付していただいており、今年で15回目となります。「コロナ禍の中、部活動の運営にも感染対策等に別途経費がかかっていると思います。北高の部活動がさらに活性化するように使ってください。」と、お言葉をいただきました。いただいた御寄付は、子どもたちの教育活動や部活動運営の補助として大切にに使わせていただきたいと思います。

「北高会」の皆様、お心遣いいただきまして本当にありがとうございました。



■ 地域探究「歴史・伝統：文化・文芸」グループの活動紹介

地域探究の「歴史・伝統：文化・文芸」グループでは、6月30日(木)の授業で、豊北町田耕のあじさい園を訪れて俳句を創作する授業を行いました。このあじさい園は管理されている個人の方が、初めは日照不足の改善のために山の斜面を伐採し、そこに数株のあじさいを植えられたそうです。それが年々増えて、今では30種類以上の400株を超えるあじさいが斜面一杯に咲いています。

「歴史・伝統：文化・文芸」グループでは、豊北町が女芭蕉と呼ばれた江戸期の俳人田上菊舎が誕生した地であるということから、俳句の創作を行っています。現在は、俳句創作の第一歩として「季語を含まない12音をつくる」という活動をしています。今回の授業では「あじさい」という言葉を使わずにあじさいを12音で表現するという活動を行いました。今年は日差しが強く、暑い中でも懸命に咲いているあじさいの様子を「木陰で休む」「崖から見下ろして」などのことばを用いて表現し、イメージを膨らませていました。

